

| | | |
|-------|----------|-----|
| 科 目 名 | プレゼミナールⅢ | 備 考 |
| 単 位 数 | 2単位 | |

塚本美恵子

映像でメッセージを伝える方法を学ぶ

1. 講義内容

この授業では、映像でメッセージを伝える基礎的な方法を、実践を通して学びます。具体的には、①何を伝えたいのかという企画を考え、これを②文字ではなく映像という媒体を使って伝えるにはどうすれば効果的かを、実践を通して学びます。授業では、まずそれぞれの学生が企画案を立て、グループでのディスカッションを通して最も良いと思われる企画を選びます。そして改めてグループ企画を練り、撮影・編集を経て映像作品を完成させます。プレゼミナールⅢでは、紹介映像を制作します。モノマネではない発想力に加えて、グループ内のメンバーとのコミュニケーションと協力の結果に生まれる素晴らしい映像作品を仕上げてください。

2. 到達目標

授業では、メッセージを伝える媒体（文字・音・映像）の特色を考えた上で、伝えたいメッセージを明確にし、企画を考え、映像制作の流れを実際に体験します。この制作プロセスを通して、映像作品ではどのようにすれば効果的にメッセージが伝えられるのか、また言語に依存しない映像表現をするにはどのような方法があるのかを論理的・多面的に考えます。更に、チームによる映像制作を通して主体性や行動力・実行力を養います。授業の到達目標は、映像編集の基礎的な技術に加えて、さまざまな企画を考えることで創造的発想力を養い、映像によるコミュニケーション能力、さらに企画に沿って作品を実現するための計画力を培うことを目標とする。

3. 関連科目

映像制作実習、映像制作演習、メディアリテラシー、

4. テキスト・参考書等

『映像制作で人間力を育てるーメディアリテラシーをこえて』塚本美恵子ほか 田研出版
その他、授業中に指示

5. 授業外における学習方法及び必要な時間

映像でメッセージを伝えるために最も求められるのは、制作者が問題意識を持ち、その問題意識をどう映像で表現できるのかの企画力です。映像は言葉なしでメッセージを伝えられることから、まずは世界の若者たちはどのような作品を制作しているのかを、世界のさまざまなサイトで視聴し(2時間)、自分の関心のある問題を深く掘り下げて調べ、4~5枚の企画書を書きます(2時間)。こうした作業を実際に繰り返し行うことで、企画力・発想力が培われます。映像作品制作のための撮影や編集作業は、授業時間外にも行う必要が生じることを予め了解しておいて下さい。

6. 成績評価方法

授業への取組み(30%)、課題作品(40%)、課題レポート(30%)で評価する。なお、授業回数の2/3以上出席しないと成績評価の対象としません。

| 授業計画 | | | |
|------|----------------------|------|----------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 第9回 | 撮影(1) |
| 第2回 | 情報媒体(文字・音・映像)の特色を考える | 第10回 | 撮影(2) |
| 第3回 | 企画案(個人)の立案 | 第11回 | 編集 |
| 第4回 | 個人企画案発表とグループ編成 | 第12回 | 編集(音入れ) |
| 第5回 | 企画案(グループ)の検討 | 第13回 | 編集、作品完成 |
| 第6回 | 企画案の検討、絵コンテ作成 | 第14回 | 作品&レポート課題(グループ&個人)提出 |
| 第7回 | 撮影準備、機材の説明 | 第15回 | 上映会・まとめと展望 |
| 第8回 | 撮影準備、編集機の説明 | | |